

学習内容報告書 フォーマット

学校名	港区立青南小学校
授業者	寺師 純子

1. 単元計画

1-1. 単元名

「海中の四季と海苔づくり」

1-2. 学年

第4学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

理科・食育

1-4. 単元の概要

陸上の四季変化と海中の四季変化を比較しながら調べる。海苔の栽培を例に季節に応じた作業を知る。さらに、生ノリと焼きのりの違いを調べ、海苔を利用した食文化に触れる。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

第4学年では年間を通じて、身近な自然の季節による変化を気温や植物の様子を関連つけて調べていく。ここでは身近な陸上生物に加えて、海中に視点を広げて調べることで、自然を大きく、海中の環境を視野に入れたものとしてとらえることができると考えた。さらに、季節に応じた海苔の栽培の方法や歴史を知り日本の食文化について考えをもてるようにした。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

植物の成長と季節とを関係づけ、海洋環境の四季変化に関心をもつ。
海洋環境と人のかかわりに考えをもてるようにする。

1-7. 単元の展開（全2時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / ◎主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海中の季節変化を調べる。 ・ 陸上の季節変化の様子を想起する。 ・ 海中の季節変化について話し合う。 ・ 海中の温度変化のグラフを見る。 ・ 海水温の季節変化に気づく。 ・ 海中の生物の様子について話し合う。 ・ 海中の景観の画像を調べる。 	○海中環境の四季変化を紹介する。

<p>2 + 給 食</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海苔の生活史を知る。 ○ 海苔つくりについて知る。 ○ 海苔の利用の仕方について知る。 ・ 海苔焼き体験をする。 ・ 生海苔と焼き海苔の食べ比べをする。 ○ 手巻きご飯を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外部講師：海苔で健康推進委員会 ・海苔の栽培について紹介する。 ・海苔の食べ方について紹介する。 ・海苔のおいしい食べ方について紹介する。 ◎ 生海苔と焼きのりの違いに気づいている。 海苔の利用について考えをもっている。 ○「手巻きスプーン」を用いて給食で、手巻きご飯を味わう。
----------------------------	--	---

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

2-2. 本時の目標

季節に応じて工夫して海苔を栽培していることを理解する。
海苔を工夫して利用してきた食文化を理解し、考えをもてるようにする。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<ul style="list-style-type: none">○ 焼きのり体験をする。<ul style="list-style-type: none">・ 焼いた部分は色が違う。・ 香りや触感も変わっている。○ 海苔の種類や使い方を知る。<ul style="list-style-type: none">・ 収穫した時期によって使い分けるといい。・ いろいろな使い方があるな。・ 家でも工夫したいな。○ 海藻の体は、その特徴を生かして様々に利用されていることを知り海の資源としての海藻について考えを記述する。	<ul style="list-style-type: none">◇ 電気コンロに海苔の半分をかざし、半分に焼き色を付けられるようにする。◇ 香りや触感を比較するとよいことを知らせる。◎ 進んで海苔を調べ、違いに気づいている。(行動観察)◇ 収穫期の異なる海苔を湯に入れ、溶けやすさの違いに気づかせる。◇ 「手巻きスプーン」や「おにぎらず」を紹介する。◎ 海苔の利用について考えをもっている。(ノートの記述)

3. 今回の活動の自己評価

身近な海苔について、知らずに利用していることが多いことに気づかせ、認識を新たにすることができた。保護者の参観を得るとともに、家庭に海苔や「手巻きスプーン」「おにぎらず」を持ち帰ることにより、家庭に学習を広げるきっかけづくりとなった。

4. 今後の課題

より多くの保護者の参観を得られるように啓発に努めることが課題である。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

「海苔で健康推進委員会」の協力が欠かせない内容である。